

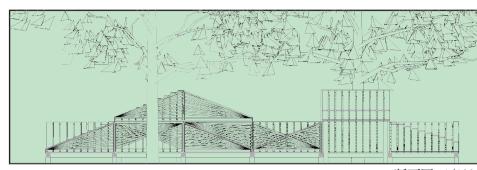
○選定敷地

本提案では、京都市左京区下鴨神社に隣接する礼の森を選定した。 礼の森は、約樹齢200年~600年の大部分を落葉樹により構成され多くの鳥類と昆虫が生息している。 そのため夏は木陰に冬は地表面まで日が届く。 木々によって街の生活音は遮断され、葉漏れ日、鳥、虫の鳴き声、敷地に流れる3本の小川により清涼感のある空間になっている。





紀の森は、参拝者(<mark>観光客</mark>)の参道の他、周辺地域心歴史的な大学などが多いことから、一年を通して豊富な地域に根差した個を大切とするチープシックなイベント(地域住民、学生)に利用されている。 多種の異なるバックグラウントを持つ人たちが交わる。 また、 京都は観光客によるオーバーツーリズムなどが多発しているため、一方のニーズに偏らないようデザインすることが重要である。 この地域性に屋外床空間が配置されることでより深いコミュニティが生まれることを目指す。





平面図 1/100

立面図 1/100





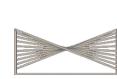
パブリックな休処地を提案する。屋外床空間に木材を扱うにあたって 腐食について考えた。防ぐために隠すのではなく、腐食を受け入れ、 腐食すると取り換えられるようにし、変化をする。木や人間のように呼

変化することで自然により溶け込み長くの残り続けるける建築を目指す。

吸する建築を想像レシステム、構造を設計した。

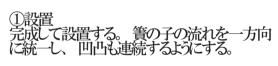
○構造

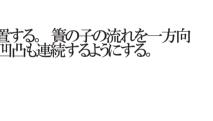


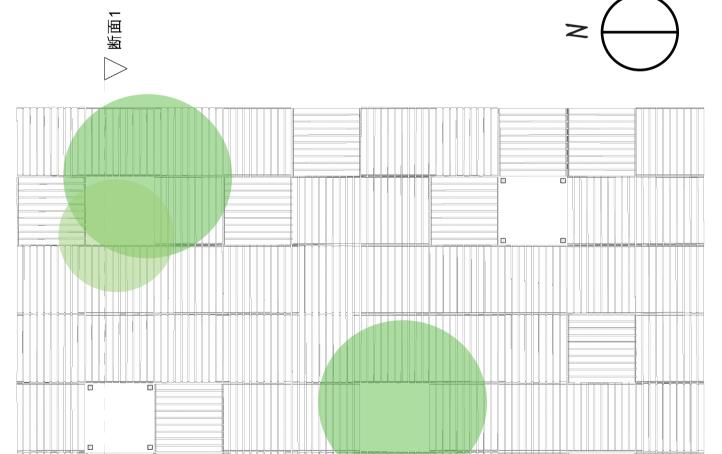




○床空間のメタボリズム





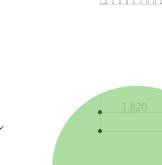


立面図1 🛆

②腐食 設置して年月が経つとピースの各所で腐食 が見られるようになる。



③乱す 腐食したピースを取り除き新たなピースを はめる。 その際、 以前とは異なる形のピ ースや、 簀の子の流れを乱して設置する。









1820×1820のグリットの土台に同じく1820×1820のピースを並べて凹凸を作る。 ピースは取り外し可能なように土台へ固定する。

